

日々の企業活動で環境改善を果たす

カーボンコンサル専門の企業を設立

㈱筑紫環境保全センター 取締役副社長

川添 克子氏



近年、環境問題は、地球的規模の課題克服へと変遷し、その影響は時代とともに広がりを見せている。このような背景の中、㈱筑紫環境保全センター（福岡県筑紫野市）は、環境を守るための新規事業について展開してきた。様々な分野において、環境・リサイクルビジネスは、循環型経済社会における中心的役割の担い手として活躍の場が期待されている。今回は、事業全体のリーダーとして旗を振り続ける、川添克子副社長に話しを聞いた。

——従来の事業との関連性や相乗効果は？

川添 わが社は、業界のニッチ分野トップを目指し、分野を自ら創り市場内での先駆者としてソフトを重点的にのばしてまいりました。

主に産業廃棄物、一般廃棄物の収集運搬および中間処理を手掛け、実績を重ねております。大規模な処理施設を保有していないため、自社の設備に固執することなく、ユーザーにとって最適な提案を目指しました。

一般廃棄物部門は、依頼を受けた自治体の現状調査から始め、改善課題等を分析し、各自治体の地域住民への配慮を踏まえ、より良い環境創りへの企画提案を持ち込んでおります。私どもが直接、処理・処分をしなくても、全国に目を向けて、適切な民間業者の施設と自治体をつなげていくことができます。各種課題をソリューションし、豊富な情報量や人脈を背景とし、コーディネートすることで、喜んでいただいています。

——全国的なネットワークを生かした取り組みが新規事業につながっていますね。

川添 産業廃棄物部門も同様で、独自の判断基準を設け、対象となる業者を分析、評価をさせていただいた上で全国に跨る地域ごとのネットワークを活かして、安心安全な処理・処分業者、リサイクル業者とユーザーが契約を結ぶお手伝いはもちろん、排



オフィス風景

出企業とそれを利用する企業を結ぶ業務も需要が多くなってまいりました。

お客様の要望がどんどん変わりますので、その外部環境に合わせて少しずつ、私たちも変化をしていきたいと思えます。そしてお客様より先に情報やニーズ、世の中の流れをキャッチして、それを環境という観点からお伝えするというのも仕事のひとつだと思っています。



環境ブランディングの依頼が増えてきた

世界的な動きでもある地球環境問題から目をそらしたままの企業は、消費者の目を引き付けることはできなくなっている時代です。企業活動が拡大すれば環境負荷も増大するという常識はもう、過去のものです。

真摯に、そして真剣に環境問題と向き合う企業こそ選ばれる、世の中に支持されるから、ビジネスもつづく、それが新しい時代の企業のあり方だと、思います。そんな時代にお役に立てる自分たちでいようと、全部署が一丸となって常に研鑽を重ねています。

最近では環境ブランディングの依頼が増えています。環境ブランディングとは『日々の企業活動の中に、地球環境にプラスとなるアクションを組み込むことで環境改善を果たすとともに、結果的に社会的なイメージアップや、消費者のファン化を図る』考え方のことです。今や、商品品質やサービスクオリティが高いのは当たり前です。

——環境に配慮した一般消費者の目も大事になります。その流れから新会社の設立につながりました。

消費者は、地球環境への配慮というプラスアルファを、企業に求め始めているのです。消費者が企業に向けるまなざしは真剣で、地球の未来を考えていない企業を選ぶことはなくなってきているのでしょうか。環境問題の中でも特に一般の関心が高い「CO₂」のことです。私たちはそういうニーズにも対応しています。

具体的には温暖化対策を中心にLCA、CFPやオフセット関係からCSR活動のお手伝いや、省エネ対

策等の環境を切り口としたユーザーの収益UPと環境負荷DOWNを同時に実現するサービスをおこなっております。

今ではノウハウと情報を持つ弊社を自社の環境部代わりとしてご利用いただいています。

その需要の高まりから昨年7月に先駆者的にカーボンマネジメント行っていた会社と合併で(株)アットグリーンというカーボンコンサルティング専門の会社(東京本社)を設立しました。

——今後の産業に対する業界の役割は変化しそうですね。

私たちの仕事が社会に与えている影響、世の中の環境問題を解決してゆく中心に参加している、という醍醐味を多少では有りますが感じる事ができます。

「今ここにある地球環境を、可能な限り美しいまま残したい」私共の全ての事業は、この思いとつながっています。私たちはやれることをただやるのではなく、本当にやるべきことを考えて、実行する。前例がないから視野が広がり、終わりがいいからこそやりがいを感じます。

私たちはユーザーと社会のニーズに育てられました。人と人、企業と企業が手を取り合って、新しい時代を築いていきます。美しい地球を引き継ぐことを使命とし、どこまでも深く考えて、環境課題を解決していきたい。できることは、まだまだありますね。

——本日は、ご多忙中、ありがとうございました。

SN/